

## 第3回 海運モーダルシフト推進協議会 議事概要

- ・日 時： 平成31年3月27日(水) 10:00~12:00
- ・場 所： 中央合同庁舎2号館低層棟1階共用会議室1

### <モーダルシフト船の運航情報等一括情報検索システムについて>

- 内航未来創造プランにおいて、陸上輸送からのモーダルシフトをより一層推進し、内航海運の新たな輸送需要を掘り起こすことが重要としていることから、システムの本格運用においては、可能な限り多くの船社が参加し、より網羅的に情報を検索可能とすることが、このシステムの価値を高めることとなるのではないかと。
- 運営主体を含むシステムのあり方については、今後の検討課題であるが、運営や改修を含めて国の協力も得ながら海運業界自らが行うべきではないかと。
- システムの本格運用開始後も、運営主体において継続的にシステムの機能面の強化を検討する必要があるのではないかと。
- 本格運用においては、運用する上でアクセス数の目標設定など、システムの活用状況をイメージして運営を進めてはどうか。
- 運休情報など各社のサイトを見た方が早いとなると、このシステムを利用しなくなってしまうため、情報を出す頻度や内容については、少なくとも各社が公表するのと同じタイミングでシステムに情報を載せることを海運事業者は意識してはどうか。
- 昨今の災害などを踏まえると、鉄道や道路が寸断された際、航路がどうなっているのかという情報は重要である。そういった観点からも、BCPの受け皿になり得るようなシステムにするための的確な情報が表示されることが必要ではないかと。
- 環境面、BCP、平時のコスト、輸送品質などについて、利用者の声が拾えるような窓口を作るべきではないかと。

### <海運モーダルシフト大賞制度について>

- 定性的な選定基準として「革新性」を加えるとのことであるが、客観的な基準など引き続き検討が必要ではないかと。
- グリーン物流優良事業者表彰においても定性的な基準を設けている。選定の方法としては、具体的には有識者の方に点数をつけて頂き、この結果を参考に行政が表彰対象を決めている。

以上